

セーフコミュニティ

セーフコミュニティとは

セーフコミュニティとは、「ケガや事故など日常生活のなかで人々の健康を阻害する要因は、予防することができる」という理念によって、安全なまちづくりを進めているコミュニティ（地域社会）のことを指す。この取り組みは、1970年代後半のスウェーデンから始まったと言われており、1989年9月にストックホルムで開催された、「第一回事故・傷害予防に関する世界会議」において、「セーフコミュニティ」の概念が宣言されている。

現在は、「WHO 地域の安全向上のための協働センター」(WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion 略称:WHO CSP協働センター)がこれを世界的に推進しており、同センターが提示する6つの指針をクリアした時点で「セーフコミュニティ申請書」を提出することができ、審査を経て認証される、国際的な認証システムとなっている。

◆セーフコミュニティのための<6つの指針>

1. コミュニティにおいて、セーフティ・プロモーション^(※1)に関連するセクションの垣根を越えた組織が設置され、それらの協働のための施設がある。
2. 全ての性別、年齢、環境、状況をカバーする長期にわたる継続的なプログラムを実施する。
3. ハイリスクグループ^(※2)と環境に焦点を当てたプログラム、及び弱者とされるグループを対象とした安全性を高めるためのプログラムを実施する。
4. 傷害が発生する頻度とその原因を記録するプログラムがある。
5. プログラム、プロセス、そして変化による影響をアセスメントするための評価基準がある。
6. 国内及び国際的なセーフ・コミュニティネットワークへ継続的に参加する。

※1 セーフティ・プロモーションとは、セーフコミュニティを目指すために、地域社会が部門や職種の垣根を越えて協働し、科学的な評価を基に予防しようとする取組のこと。

※2 ハイリスクグループとは、ある病気にかかりやすい、危険性の高い、特定の人たち。例えば、肺がんにおいては、ヘビースモーカー（中毒的な喫煙者）がハイリスクグループであると言える。

セーフコミュニティ・コーディネータ

国や地域の実情に応じたセーフコミュニティ活動推進のため、WHO CSP 協働センターは、セーフコミュニティ認証センターと協働で各国にセーフコミュニティ・コーディネータを配置している。セーフコミュニティ・コーディネータの役割は、WHO CSP 協働センター及び認証センターと連携しつつ、自治体等がセーフコミュニティ活動に取り組み、推進するための支援やアドバイスを行うことである。

日本における公認セーフコミュニティ・コーディネータは、2008年3月に任命された白石陽子氏（株式会社マチュールライフ研究所 所属）が唯一である。（2010年4月現在）

◆関連団体

日本セーフティプロモーション学会 (JssP)

- ・事務局
〒602-0895 京都市上京区清和院口寺東入の中御霊町410
京都府立医科大学医学部看護学科
- ・電話(FAX):075-212-5439
- ・Eメール:misaka@cmt.kpu-m.ac.jp
- ・セーフコミュニティの総合的なホームページ
<http://www.safetyprom.com/>

株式会社マチュールライフ研究所

- ・<http://www.mature-life.jp/>
- ・「セーフコミュニティ」に関する質問、お問い合わせはコーディネータまで。
セーフコミュニティ・コーディネータ（日本担当）
白石陽子（Eメール:yokomature@cyberoz.net）
電話：06-6940-1335 FAX：06-6940-1336

日本国内の認証都市

セーフコミュニティの認証は1989年から始まり、2010年3月現在、世界で179都市が認証を取得している。日本では、2008年に亀岡市（京都府）が国内で初めて認証され、2009年に十和田市（青森県）が認証されている。また、厚木市（神奈川県）、横浜市栄区（神奈川県）なども、「セーフコミュニティ」認証取得を目指して具体的な取り組みを推進しており、厚木市は2010年3月に申請書提出を完了させた。